

市民協働による 総合力の向上

平成26年度に実施した市民満足度調査における「むつ市の取組に対する総合満足度」は、3.34点（5点満点中）という結果となっており、市民生活向上に係る取組の充実が求められています。このような中、社会構造や財政状況の変化、市民ニーズや価値観の多様化といった複雑化している地域課題に柔軟に対応するためには、市民、各種団体、行政など、地域の多様な主体が関わり、それぞれがつながることで総合的にまちづくりを進めていくことが重要となっています。

また、市民協働を進めるうえで、市民と行政が果たすべき役割を明確にするとともに、お互いが情報を双方向で共有することが、市民活動団体や特定非営利活動法人（NPO法人）の積極的な市政への参画を促進し、調和と活力のある地域づくりへとつながっていくこととなります。

本市の特色ある自然、歴史、文化、産業、科学技術関連施設等の集積、そして、豊かな人材を総合的に活かし、地域の総合力を向上させ、個性あふれる地域づくりを推進することが課題となる中で、これまでの各地区の特色ある地域づくりを活かしつつ、地域住民と連携しながら、市としての総合力の向上を図っていくことが重要です。

支え合い、
継続していくまちへ

日常生活の中に多種多様な情報があふれ、恵まれた物質社会の恩恵に浸り、日々の生活が豊かになるとともに、ライフスタイルや趣味、趣向が多様化する一方、核家族化や少子高齢化が進み、近隣関係、人と人、世代と世代の交流の絆が年々希薄になってきています。また、防災、防犯等の観点から「自助」「公助」とともに地域コミュニティの「共助」の大切さがクローズアップされています。

今、私たちが直面しているのは、地域の絆を取り戻し、コミュニティが「人」を育て、地域のリーダーや次代を担う後継者が育成されているまちなりになるという課題。市民一人ひとりの、地域社会に対する関心を高める取組みが不可欠になっています。

人と人、世代と世代 が生む地域の絆を 大切にする。

むつ市が目指す
地域社会の姿

まちづくりの主役は市民一人ひとりで、むつ市は、市民のみならず、市民の主体的な活動や交流の支援による主体的な活動や交流の支援による施策を展開し、新たなつながりを生み出す地域経営の仕組みの構築を目指します。併せて、市民主体のまちづくりの基礎となる地域コミュニティの機能の充実を図ります。

子どもからお年寄りまで、誰もが自由に楽しくいきいきとコミュニティ活動に参加できる住みよい地域社会の実現。そのために、町内会をはじめとするコミュニティ自治の仕組みづくりや活動を支援し、自治意識の高揚を図るとともに、地域社会の活性化につながる世代間交流の促進を図ります。

「住民の力」には、 支え合う気持ちが 大切なんです。

中野沢猿田彦神社の宮司でもある大覚院熊野神社渡邊英司宮司に、神職として思う「地域のつながり」について伺いました。

地域に神社がある理由

「敬神崇祖という言葉をご存じですか？今私たちが生きているのは親のおかげだし、その親も親のおかげ。ずっとずっと遡れば、神様に通じるというのが神道の考え方です。私たちは一人ではなく、家族、会社の同僚、友達や地域の仲間とともに暮らしていますし、自然の恵みで生きていますので、そのようなすべてのものに『生かしていただいている』という気持ちがないと生きていけないと思います。」

どんなに小さい集落でも必ず神社があります。昔の人たちは何で神社を建てたか。それは、その地域の人がたがまとまって生きていきましようとか、自然の恵みに感謝しましよう、漁師さんも農家さんも豊作豊漁を願う気持ち、幸せに暮らしましようという気持ちを集める場所が神社だったからです。現代風と言うとコミュニケーションの場というところでしょか。「社会」という字は「神で会う」と書きますね。そうやって気持ちをひとつに、支え合って、地域は成り立ってきたのです。」



11月19日中野沢猿田彦神社の新嘗祭。厳粛な空気の中、今年一年の収穫に感謝する。



1 中野沢猿田彦神社例祭並御鎮座四百年記念祭(H28.8.14)の記念写真。
2 渡邊宮司から見せていただいた新聞記事。住民力が地域にとっていかに大切かを論じるこの記事を手元に、お話をしてくださった。



青森県神社庁理事
大覚院熊野神社(兼務社達拝殿)
宮司 **渡邊英司** さん

「一年見守ってくださってありがとうございます。また新たな一年よろしく願います。の思いを込めて正月飾りを飾る。生きていることに感謝し、伝統を継いでいくことは大事なことです。」と渡邊宮司。

伝統の行いを守ることは、先祖の思いを大切にすること

「出来事を連ねたものが歴史ではない、先祖が大事に守ってきたものに魂が込められていることが日本の歴史なのだ、ある歴史学者が言っていました。お正月に神社や各ご家庭にしめ縄を飾るといった古くからの行いや、地域に必ずある伝統行事を大切にすることというのは、先人たちが守ってきた『自分たちの地域を大切にしていきたい』という魂のこもった思いを大切にすることにつながります。」

地域の支え合いが住民力

「3年前、中野沢猿田彦神社は、創建から400年の節目を迎え、四百年祭という祭りをしました。こんなに歴史のある神社なのだからやりましよう、みんなで協力して祭りの道具を借りてきて、猿田彦神社の神様を奉った御神輿の行列を組み、盛大に執り行われま

した。これは、地域みんなの意識がまとまらなければできなかった。一つの共同体というのでしょか。みんなで協力し合いながら、先人たちが大事に守ってきた400年という歴史の流れを自覚しながらやっただけです。

私は神職ですので、地域のつながりというものを神社やお祭り、四季折々の伝統行事になぞらえてお話しますが、すべてのことに共通して言えることは、住民の力というのは、支え合う気持ちが必要だということです。いろんな行事をするには結集力が必要ですし、心がひとつになつていなければまとまらないんです。」

それぞれが支え合えば住民の力が高まる。住民の力が高まればまちには生きる。昔から人々は、伝統を守ることを通じて、地域の支え合いの心を保っていたのかもしれない。

むつ市地域の明るい未来に関する パートナーシップ協定

むつ市と市内各町内会は今年4月、むつ市地域の明るい未来に関するパートナーシップ協定を結んでいます。むつ市民のみならず、一番身近な自治組織である町内会と市が、今まで以上にしっかりと連携することにより、ともに暮らしやすいまちを目指すことになりました。一人ひとりがシビックプライドの意識を胸に、一緒にむつ市の明るい未来を切り開いていきましょう。



より暮らしやすい
まちになるために
取り組みます

さあ、
新しい年がはじまります。